

パレスチナ国際連帯フェスティバル・大阪 賛同のお願い

前略、ご免ください。政治状況も天候も放射能被害も不当弾圧も…日々最悪度を増す中で、渾身の力と精一杯の声を振り絞りつつ、皆様にお問い合わせ申し上げます。

パレスチナ・ガザの民衆は去年の「土地の日」(3月30日)に「グレート・リターン・マーチ」(=帰還の行進)を開始し、その後も毎週数千人以上の規模で現在も続けられています。イスラエルの隔離壁に閉じ込められ、食料・飲料水・医薬品が枯渇しているガザは、世界最大の「青空監獄」と呼ばれています。そのガザの民衆が遂に立ち上がって始めた行進は、直ちに世界中の人々の同情と共感を呼び、パレスチナ全土で祖国復帰を求める壮大な抗議行動へと広がりました。同時に、イスラエル当局と軍は銃口を罪もない民衆に向け、多大な犠牲が発生しました。

「パレスチナ抹殺」を企むトランプ政権とイスラエル当局は、ゴラン高原の国有化、エルサレムの首都化、「ユダヤ国家法」制定など排外的なアパルトヘイト政策を拡大しています。また、資源と市場の更なる独占を目論むアメリカ帝国主義とグローバル資本によって、中南米の民衆も辛酸困苦を強いられています。人々は過酷な状況から逃れるために流浪の民と化し、米国南部国境に向かって行進を始めました。これに対し、トランプ政権が南部国境に壁を立てて難民・移民排除を強化していることは、周知の事実です。

日本の状況は、言わずもがな言語道断です！憲法改悪を目論む安倍政権は、米国トランプ政権とイスラエルとの軍事同盟を前提に集団自衛権を容認し、沖縄への基地集中と辺野古新基地建設を推し進めています。さらに、天皇代替わりと「新年号」公布、G20(大阪サミット)と東京オリンピックの開催で祝祭ムードを演出、以て福島原発事故を反故にしようと躍起になっています。その裏で、特に関西では「連帯労組・関西生コン支部」に対する空前絶後の政治弾圧が続いています。

私たちは、この現実を決して許すことはできません。パレスチナの人々との、沖縄や福島で闘い続ける人々との、そして、多種多様な＜反差別・反戦・反貧困・反弾圧＞の闘いと、永続的で強固な連帯を作り出したい！大同小異の民衆的統一戦線

を構築したい！その一つの、かつ、強固な意志表示として、私たちは「パレスチナ国際連帯フェスティバル」を開催するに至りました。加えて、闘争故に獄に囚われた人々の救援活動を続けて来た「救援連絡センター」が創立 50 周年を迎えることも記念して共働いたします。この趣旨にもご理解くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

私たち実行委員会では、「パレスチナ国際連帯フェスティバル」の成功に向けて、一人でも多くの方々の賛同をいただこうと申し合わせをいたしました。ここに、皆様のご賛同を賜りたく、本書面にてお願いする次第です。なお、賛同金は一口¥3,000 とさせていただきます。

重ね重ね、皆様の温かいご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※この文書の末尾(5ページ)に「賛同承諾」書式がございます。

2019 年 8 月 25 日 パレスチナ国際連帯フェスティバル
大阪実行委員会
(代表：趙博、事務局長：戸田ひさよし)

〒 544-0031 大阪市生野区鶴橋 3-6-24 コラボ玉造 内
tel / fax 06-6741-8012

企 画 内 容

名 称：パレスチナ国際連帯フェスティバル・大阪

主 催：同 実行委員会

日 時：10 月 30 日（水）19:00 ～ 21:00（開場 18:30）

場 所：大阪市立中央会館ホール

〒 542-0082 大阪府中央区島之内 2-12-31 電話：06-6211-0630

入場料：前売¥2,000、当日¥2,500

構 成：講 演／「重信メイ、パレスティナ問題を語る」

歌と演奏／パギやん[趙博]

川口真由美

MC GAZA（パレスチナから招請手続き中）

出演者プロフィール

重信メイ (しげのぶ めい)



中東問題、中東メディア専門家。1973年、レバノン・ベイルート生まれ。日本赤軍のリーダー重信房子とパレスチナ人の父の娘として、無国籍のままアラブ社会で育つ。1997年、ベイルートのアメリカン大学を卒業後、同国際政治学科大学院で政治学国際関係論を専攻。2001年3月に日本国籍を取得。来日後はアラブ関連のジャーナリストとして活躍。2011年同志社大学大学院でメディア学専攻博士課程を修了。現在、レバノン在住。パレスチナ問題を中心に幅広く講演活動も行なっている。

<主著>『秘密ーパレスチナから桜の国へ 母と私の28年』(講談社、2002年)

『中東のゲッターから』(ウエイツ、2003年)

『「アラブの春」の正体ー欧米とメディアに踊らされた民主化革命』(角川書店、2012年)

パギやん (趙博/チョウ・バク)



20世紀中盤の大阪市西成区に生まれる。"浪花の歌う巨人・パギやん"の愛称で親しまれている歌手・俳優・物書き。CD『百年目のヤクソク』『原・滅・言』『怒!阿呆陀羅経』『ワテらは陽気な非国民』など、DVD『コンサート・百年を歌う』、著作『英語がわかる』『僕は在日関西人』『夢・葬送』『パギやんの大阪案内』『「在日」無頼控』(2018年5月、七つ森書館)など。【新宿梁山泊】の作家兼役者で『百年、風の仲間たち』『丹下左膳/百万両の夢枕』の脚本を担当、『月の家』『二都物語』などに出演。また、映画や小説を題材に一人芝居《歌うキネマ/声体文藝館》シリーズも各地で公演、演目は『砂の器』『飢餓海峡』『泥の河』『キクとイサム』『NUTS』『マルコムX』『西便制~風の丘を越えて』『水滴 (目取真俊・原作)』など、15タイトル。

川口真由美 (かわぐち まゆみ)



京都在住のシンガーソングライター。障害者施設代表。3人の子供を育てるシングルマザー。戦争反対・護憲・反原発・沖縄基地建設反対などの運動に参加しながらメッセージを込めた弾き語りやピアノを使った演奏を行っている。辺野古には月1回ペースでゲート前の座り込みなどに参加。その場においても「歌」や「踊り」で連帯を続けている。肩を寄せ合い、力を寄せ合いながら生きる人々の中で、悩み、葛藤しながら紡いできた詩とメロディーの力強さは、多くの人々の心に響いている。そして、倒れても立ち上がり前に進む力を与えてくれる。2016年、ファーストアルバム『想い 続けるー沖縄・平和を歌うー』、2018年カンドアルバム『人のチカラ』をリリース。

MC GAZA

※まとまったプロフィールが未到着なので、以下の新聞記事をご参考ください。
なお、YouTube で検索すると、彼らの動画やミュージックビデオが多数出てきますので、そちらもご参照ください。

『闘士がラッパーに』 ～ガザの MC GAZA メンバー Ibrahim Ghuneim ～

【ガザ発】 11年前、13歳でイブラハム・グネイムはジハード戦士になってガザを占領しているイスラエル兵に対して武器を取りたい、と思った。しかし、たった1回の「ラップコンサート」が彼の心を変えた。

MC GAZA というステージ名で有名なラッパー、グネイムは語る。「僕は、本当にジハード戦士になる予定でした。もしラップがなければ、パレスチナの抵抗運動に参加してイスラエルに対して武器を持って闘ったでしょう」反抗的な面持ちを残しつつも、魅力的な顔つきだ。

2005年のコンサートを聴いて、彼は家に飛んで帰った。インターネットで有名なラッパーをチェックし、彼らから多くを学ぼうと思った。「毎晩、インターネットでラップ音楽を貪りました。そしてエミネム*(1)を見つけた。僕のラップの原点です。最初は、ちょっとやってみようかというノリだったんですけど、とにかく止まらなくなっちゃった」彼はいま、国際的な著名人になること、少なくとも[ガザのエミネム]と呼ばれるようになりたいのだと言う。

「特にこの10年間は成功裏に音楽経験を積んでこられたので、グローバル規模のラッパーになる夢は決して捨ません」確かにこの10年間、彼はイスラエルに居を構えて音楽活動をしているアルジェリア人ラッパー・Fares Weld El Alma や、デンマーク人のラッパー、パレスチナの歌手、その他たくさんのアーティストと共演を重ねてきた。イスラムの軍事グループであるハマスが支配しているガザの多くの保守層には、ラップは西洋文化の"頹廢した"商品だと映るだろう。「ラップ自体に対しても、ラッパーに対しても、その芸術性を評価する人はほとんどいません。ガザではラップをハラーム(haram)、つまり、イスラム法の禁忌事項だと見なして、僕たちは西洋異世界の物真似をしてるにすぎない、とハマスは思っているの

でしょう」
社会的な視点からすると、例えば自分に結婚したい女性がいたとしたら、彼女の家族は自分の職業を認めないかもしれない、と言う。「結婚したいとしても、自分がラッパーであることを尊敬してくれる人は誰もいないでしょう。ラッパーなんて恥だ、と考えていると思います」それでも、ラップは1990年代以降ガザの地で存在し続けてきた。それは、若いパレスチナの音楽グループがチュニジア、アルジェリア、レバノンでの演奏旅行を終えて戻って来からのことだった。

現在、グネイムは演奏活動を休止している。ガザには二つの劇場があるが、オーナーがラップを嫌っているの、どちらの劇場でも公演を認めてくれないからだ。それは、ハマスがとっている[大衆の感傷的感情を扇動することは禁止する]という規制策の拡大解釈だともとれる。「他の誰もがそうでしょうが、僕たちも現存するハマス当局の検閲を受けています。でも向こうが一線を越えて来るなら、僕は限界に達してそれ以上の検閲には耐えられなくなるでしょう。ラップは僕の情熱です。そのラップがこの地でどんな弾圧を被るかを見届けること、これは僕の人生における重大な問題になりえますね」

ガザにおいてラップ音楽家としての情熱をあくまで追求するグネイムの闘いは、決して孤独ではない。イスラエルの支配に対する第二次蜂起の期間中、2001年にレバノンから帰還したアマン・ムガミスは「非道い時代でしたから、私たちは暴力以外の手段で何かを成し遂げたかったのです」と語った。彼の初期のラップアルバムはガザの生活状態に焦点を当てた内容だったが、多くの暴徒たちが歌ったためにあまりにも政治主義的になってしまい、その結果、2015年にハマス当局は彼を5時間も尋問したのだ。「家族、特に娘が心配でしたが幸い害は及びませんでした。彼ら

は、常にお前のことを監視しているぞ
ということを示したかったんでし
ょうね」そして、彼のアルバムが 2015
年 3 月フランスで発売された時、家族が
一緒にフランスへ旅行する許可は降り
なかった。

ラップは、過去 10 年間耐えてきた惨
めさからガザの人々の心を解き放ち、
彼らに喜びを伝えてくれるのだと、グ
ネイムは楽観的に語る。「それこそラッ
プなんですよ、絶対！」親指を立てな
がら、彼は力強く言った。

-- Saud Abu Ramadan *(2) 記者 --

["The Arab Weekly"]

2016 年 4 月 16 日号より全訳]

(1) Eminem ヒップホップ MC、プロ
デューサー、ラッパー、俳優。全世界
で 2 億 2000 万以上のアルバム&シング
ルを販売し、「世界史上最も売れたアー
ティスト」と称される。グラミー賞は 15
回の受賞歴を誇る。

(2) ガザを拠点に、28 年以上「イスラ
エル・パレスチナ」紛争問題取材し
続けている。



Ibrahim Ghuneim



MC GAZA



「パレスチナ国際連帯フェスティバル」賛同人になります。

■お名前

■所属・肩書き

■ご住所（〒 - ）

■☎、Fax、メールなど

※ファックス(06-6741-8012)かメール(info@fanto.org)で返信してくださいませ。